

# 行田 歴史系譜 284

歴史を語るこの「いっぴん」  
博物館の収蔵庫から

20

## 新川早船絵馬

市指定文化財 琴平神社所有

利根川と荒川に挟まれた行田市域は、舟運が物資や人員の輸送に欠かせない重要な交通手段でした。両河川には荷物の集積地として河岸場が設置され、河岸問屋が取り仕切っていました。

写真の新川早船絵馬は明治6年(1873)に下忍の琴平神社に奉納された絵馬です。新川とは新川河岸(熊谷市)のことで、江戸時代は忍藩の年貢米や御用荷物の積出場所となっており、下久下河岸、江川河岸とも呼ばれていました。早船とは、荷船だと江戸まで行くのに途中の河岸場での荷物の積み下ろしで4〜5日かかるところを、朝出帆すると翌日には江戸に到着した急行便の旅客船のことです。

絵馬に描かれている白い帆を張った高瀬船が早船です。船上には、キセルを吹かす人や子どもを背負った女性、船尾で舵をとる船頭とみられる人物など9人が乗船しています。帆の後ろには筵を架けた



新川早船絵馬

荷物が積まれています。左上には河岸問屋が描かれており、部屋の中には河岸場の主人か番頭とみられる羽織を着て大福帳をつけている人物がいます。外には陸揚げされた荷物を運ぶ人足がいます。

この絵馬の願主は、武州末野村(寄居町)の柴崎鉄五郎という人物です。さらに、現在では薄くなつて読み取ることが難しいですが、絵馬の下側に28人の奉納者の名前が列記されています。内訳は埼玉県内23人と県外5人で、県内は荒川や元荒川、利根川、新河岸川、越辺川沿岸の人たち、県外は栃木県藤岡や千葉県行徳、群馬県玉村などの人たちです。彼らは河岸問屋や船頭たちであると思われ、香川県琴平町の金刀比羅宮が船乗りの信仰を集めたように、舟運に携わる人々の航路の安全と商売繁盛を祈って、金毘羅大権現を祭神とする琴平神社に絵馬を奉納したのでしょう。かつての舟運の繁栄を伝える貴重な資料となっております。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)

## 特定非営利活動法人 キャンパー

キャンプを通じて習得した野外調理技術を生かし、災害時に炊出し活動を行うとともに、被災者の精神的ケアも行っているのが特定非営利活動法人 キャンパーです。普段は非常時に備え、大量調理システムの研究開発をはじめとした防災力の向上や、キャンプを通じて自然を大切にできる子どもの育成などを図りながら、他者を尊重する共助社会の実現を目指しています。

平成16年から活動を始め、現在の会員数は約70人。これまで、中越地震や東日本大震災、昨年の熊本地震などの震災時にキャンピングトレーラーで被災地へと駆けつけ、一定期間継続して炊き出しを行ってきました。また、発足直後から「日本調理科学会」と災害時のマニュアルを作成。熊本地震では同マニュアルに従い、地元の学生が中心となり被災者へ食事の提供を行いました。その際に多くの学生の意欲向上につながったことが、非常に大きな成果になったとのことです。

「私たちは、ご飯を通じてエールを送っているのです」と頼りがいのある笑顔で話す代表理事の飯田芳幸さん。

「備えあれば憂いなし」。キャンパーの活動に終わりはありません。

【代表理事】飯田 芳幸 【Eメール】jimu@camper.ne.jp

## つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～⑪



熊本地震での炊き出しの様子

### 今月の表紙

市では中京大学スポーツ科学部の金子潤助教と連携し、足袋と足の形成に関する研究を始めました。

東小学校では、10月末から全校児童が足袋を終日履いて学んでいます。休み時間にはたくさんの子供たちが足袋を履いて元気よく外で遊んでいます。(関連記事7ページ)

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をデジタル版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています